



ミンガラバー

認定 NPO法人
 日本・ミャンマー
 医療人育成支援協会
 〒700-0815
 岡山市北区野田屋町2-4-18
 TEL: 086-224-0102
 FAX: 086-221-2554
 URL: http://www.mjcp.or.jp



鉄筋の柱が立ち上がった学校建設現場で子供たちに囲まれ、学校名の入った銘板を手にする富安医師(左)エーヤワディ州ニナウン村

ミャンマーで見た、考えた



バゴダの前で全員記念撮影。このバゴダは最近、地元翡翠収集家が翡翠を使って建立し、新しい観光地になっている「マンダレー」

ミャンマーへ昨年12月、岡山学芸館高校(岡山市東区、森健太郎校長)の当時の1年生9人が研修旅行に出かけた(前号掲載)。全員が医療系への進学を目指しており、生徒たちは診療所を見学し、自閉症児の施設を訪問、また現地の高校生と交流した。帰国後、研修体験の感想文を綴り、同行した協会の岡田茂理事長に寄せた。その中から2編(抜粋)を紹介する。

岡山学芸館 高校生 研修旅行記

戦争を正しく理解すること

2年 杉本祥太郎

ヤンゴンにある日本人墓
 地は3500坪の土地に大
 小さまざまな慰霊碑や墓石
 墓碑が並んでいました。その一
 番奥には、ひととき大きな大
 理石の礼拝所がありました。
 始めは正直、沢山ある観
 光地の一つという軽い思いで

古くからあった日本人墓
 地を今のかたちに作り替え
 たのはビルマ戦線で生き残り
 た方々です。彼らにとって、血
 を流したこの地に再び戻る
 ことはとてもなくつらかつ
 たと思います。異国で倒れ
 た戦友の魂を鎮めにやつて来
 たのは、流した血でつながった
 者への感謝と自分たちは今、
 幸せに生きていることを伝
 えたかったからだ、と思います。
 かつて1万人程いた戦友

会の会員が1000人を切つて
 いるそうです。ある人の言葉
 に「本当に死ぬということは
 人に忘れられること」とい
 うものがあります。ビルマで戦
 った人たちが本当の意味で死
 なせないために今、私たちが
 できることは戦争を体験し
 た人々から話を聞き、戦争
 を正しく理解することです。
 そして、2度と戦争を起こ
 させない、という思いを持ち
 続けるべきです。

子供たちの笑顔を守る仕事を

2年 飯塚 朝葵

ミャンマーでは、手術が
 必要とわかってても、高額な
 費用のため手術が受けられ
 ない人が沢山います。交通
 事故の死亡者の数が非常に
 多いというの大きな課題
 と感じました。そして、手

術を受けられても社会福祉
 が不十分で、その後の暮ら
 しが大変なことも問題とさ
 れています。
 そんな医療現状をみた私
 にとつて、日本人の吉岡秀
 人医師が運営する「ジャバ
 ンハート」の活動を、マン
 ダレー郊外のワッチェ病院
 で見学した時はとても感動
 しました。無料で手術を受
 けた子供たちがボランティア
 の日本人看護師たちと笑
 顔で過ごす様子が魅力的に
 思えました。子供たちと一
 緒に塗り絵していると、
 私の名前を呼んでくれました。
 それが今でも一番の思
 い出です。

でも、一般的には子供た
 ちが病気に苦しみながら手
 術を受けることがとても難
 しいのがミャンマーの状況
 です。このことを知った私
 には、何ができるのか。
 日本の「国境を越えた医療」
 が沢山の命を救っているこ
 とを知り、将来、この子供
 たちの笑顔を守るような仕
 事をしたい、と思うことが
 できました。

サイクロン禍の村に小学校

東広島市の富安医師 寄付

大河エーヤワディ川支流
 の河口近く村に、協会賛助
 会員の広島県東広島市の医
 師、富安基晴さんが小学校

を寄付した。
 2008年にミャンマー
 を襲った巨大サイクロンで、
 海に近い低湿地のニナウ
 ン村は大きな被害を受けた。
 人口約200人のうち15
 5人が死亡、小学校も丸ごと
 と流された。その後、避難
 していた村人も徐々に村に
 帰り、現在は住民約180
 人。小学生が42人いるが、

通う学校はなく、学校の再
 建が待ち望まれていた。
 新しい小学校はまだ建設
 中だが、3月30日に贈呈式
 があり、富安さんはヤンゴ
 ンから8時間、車とボート
 を乗り継いで出席した。校
 舎は鉄筋レンガ造りで、サ
 イクロンが襲来しても壊れ
 ないようできており、村
 民の避難場所になる。建設

にあたって村民は労力奉仕
 をし、街から鉄骨やセメン
 ト資材をボートで運ぶなど
 協力している。
 学校名は「ノアリア小学
 校」。富安さんの4歳にな
 る双子の娘、望彩(のあ)、
 倫彩(りあ)ちゃんにちな
 んで名付けた。富安さんは
 贈呈式で、教育の重要さに
 触れた後「2人の娘が成人
 してこの地を訪れ、日本と
 ミャンマーとのかかわりを
 思い起こしてくれば嬉しい」と挨拶した。村民は総
 出で歓迎した。
 協会を通じてミャンマー
 への小学校寄贈は、西山央
 子理事の「あかね・コンザ
 ウン小学校」、NPO法人
 地球元氣塾(東京)の「地
 球元氣塾・チャウス小学校」
 に次いで3校目。

寄付小学校3校目

各地で医療支援活動

協会の岡田茂理事長をリーダーに岡山大学を中心にした医師らが1月、ミャンマーを訪問した。総勢30人。それぞれの専門分野の医療支援活動を各地で繰り広げた。

岡山大中心に30人

年初の恒例行事になって
いるミャンマー医学研究大
会のシンポジウムでの講演
は岡山大の6人。岡田裕之
教授(消化器内科)、杉原
雄策助教(消化器内科)、
横田憲治教授(細菌学)が
ピロリ菌や内視鏡検査につ
いて話した。光延文裕教授
(老年医学)、頼藤貴志准
教授(人間生態学)は環境
汚染による人間への影響、



現地の医師へ形成手術の指導＝ヤンゴン総合病院

シンポ■手術指導■検診

また松川昭博教授(病理学)は岡山大学の医学教育について講演した。
協会理事の木股敬裕教授ら岡山大形成外科中心のグループはヤンゴン総合病院とネピドー総合病院の2か所にわかれて手術指導をした。協会理事の笠井裕一・三重大教授ら整形外科のグループはモラミヤイン総合病院で、また脳外科の小野成紀・川崎医大教授らはヤンゴン総合病院で手術の指導に当たった。
岡山大口腔外科の水川展吉講師と山近英樹講師はバゴー総合病院で口腔がん検診をした。約40人を調べ、口腔がんや前がん症状の人が見つかった。この検診には口腔外科医でもある協会理事の永山久夫・岡山プラザホテル社長も同行した。

再訪 患者、年間3万人超 あかねクリニック

ヤンゴン郊外のカラウチャック村にある「あかねクリニック」に1月14日、寄贈者の協会理事の西山央子さんが9年ぶりに訪れ、クリニックの活動状況などをみた。2009年9月の完成式の時はこの村は水路が唯一の交通手段で、出席者は小舟で参加した。今は新しい道路ができ周辺地域と結ばれ、村の戸数も約3000から5000に増えた。
診療所の患者数が2017年は31,730人になり、周辺も含めた地域の医療中心となっていた。病気は下痢症、糖尿病、高血圧や結核が多かった。
医師は巡回だが看護師、助産師ら7人が常勤でいる。その宿舎が近くに欲しいというのと、水を確保するタンクの設置の希望もあった。



再訪を村の幹部や地域の医療関係者集まって歓迎したカラウチャック村

協会だより ヤンゴン第2医大に 骨髄移植センター

岡山大学で研修の医師 エイエジ教授

4期生20人始業式 あかね基金
エーヤワディ管区のチャウンゴンで4月2日、准助産師を目指す20人の始業式があった。
西山央子理事が設立した奨学制度「あかね基金」を受け、4期生。半年間、勉強して准助産師の資格をとる。この奨学制度は2015年にスタート、5年間に毎年20人ずつ計100人の准助産師を育てる計画。

遺伝子分析を学ぶ

マンダレー医科大学のタンドラーアウン医師とヤンゴン第2医科大学のヘイマーウィン医師が3月に岡山大学医学部で研修。分子生物学教室(大橋俊孝教授)と生化学教室(行居孝二教授)で遺伝子分析について勉強した。岡山大が引き、協会が宿舎を提供した。

妊婦検診に利用

北村記念産院 クリニック

ミャンマー唯一の世界遺産「ピュー古代都市群」があるピュー市に三重県伊賀市のニチニチ製薬が寄付した「北村記念産院クリニック」が開院して丸1年の4月3日、同製薬の嶋田貴志さんが訪れた。
同産院はミャンマー健康財団が運営するクリニックと同じ敷地内にあり、妊婦検診に利用されていた。

引き続き導入 協会に研修依頼

帰国した。
PET・CTは病変の活動状況を見るPETと、臓器の形や場所を見るCTの特徴を組み合わせた検査。がんの早期発見や再発・転移を1回の検査で調べることができるとしている。
引き続き導入
協会に研修依頼
ミャンマーでは続いてヤンゴンの北オカラップパ総合病院にも導入されており、協会に日本での研修依頼がきている。

「自信つき、やっていけそう」

がんの早期発見に威力を発揮する最先端の医療機器「PET・CT(ペット・シーティ)」がミャンマーで初めてヤンゴン総合病院に導入され、医師ら2人が協会の引きで3か月間、岡山で研修を受けた。

初のPET-CT 医師ら岡山で研修

同病院医師のチャウスウインさんと技師のテモンチョウさん。昨年10月から12月まで岡山大学病院放射線科(金澤右教授)と岡



PET-CTの前で、有岡さん(左)とチャウスウインさん(中)、テモンチョウさん(右)岡山画像診断センター

編集後記 「今の若者は」というのは禁句と心得ながら、その行状について口走ってしまいます。身勝手だ、辛抱しない、礼儀知らずだ…。この半面、頼りがいを感じたり、優しさに触れたり、鋭い感性にドキリとさせられたりすることがあります▼岡山学芸館高校生のミャンマー研修記を読んで感じたのはもちろん後者です。掲載の2編からは平和への強い希求、進路への固い決意が伝わってきました▼他の7編は紙面のスペースがなくて、紹介できませんでした。それぞれにミャンマーでの体験が若い世代らしい目で綴られていただけに、申し訳ありません。(西崎)